Press Release

報道関係各位

2026 年 11 月 18 日
株式会社 PR TIMES

俳優・北村一輝と小澤陽子アナが司会｜Public of The Year 2026 を開催。今年を象徴するスポーツ選手、文化人、企業人の社会を動かした行動を表彰



株式会社 PR TIMES（本社：東京都港区、代表取締役社長：山口拓己、東証プライム・名証プレミア：3922）が 2026 年に社会を動かした人物と、その行動をたたえる「Public of The Year 2026」の授賞式を、2026 年 12 月 7 日(月)に開催いたします。

その年を象徴する人物を、その影響力や成果だけでなく、何をしたか（行動）の面で振り返り、自らの言葉で振り返ってもらう。世の中を動かしているのは一人ひとりの行動だと、誰もが体感できる社会を Public of The Year は目指します。

何を言ったかではなく、何をしたか。行動にこそ、人の心を揺さぶる力があると信じ、2024 年より当社は、その年の社会を動かした人物と、その行動をたたえる Public of The Year を開催してきました。

初開催となる 2024 年は、小田凱人、北口榛花、Creepy Nuts、一力遼、織田友理子、小森日菜子、関根江里子、中田哲也、松田崇弥・文登（敬称略）が受賞し、続く 2025 年は、ミャクミャク・山下浩平、HANA、遠藤航、村竹ラシッド、鈴木俊貴、王谷晶、袴田ひで子、藤本壮介、河合祐子、井田奈穂（敬称略）が受賞しました。

2026 年を象徴する Public of The Year の発表とその受賞者たちの行動を振り返る言葉を、12 月 7 日に発表します。

メイン MC に北村一輝さん、司会進行に小澤陽子さん

その年を象徴する人物の行動をたたえる Public of The Year。今年はメイン MC を俳優の北村一輝さんが務めます。映画やドラマ、舞台などで多彩な人物を演じてきた北村さんにとっても、授賞式メイン MC という初挑戦の一歩を Public of The Year がご一緒します。

さらに、今年フジテレビを退局して新たな活躍の場を広げる小澤陽子さんが司会進行を務めます。2026 年は小澤さんにとっても、アナウンサーとして活動しながら、新事業〖zutto toujours〗を立ち上げるなど、新しい行動の一年でした。

社会を動かし、つなげた人物の行動をたたえる Public of The Year に、お二人をそれぞれの新たな挑戦の中でお迎えできることを、うれしく思います。授賞式では、お二人とともに、受賞者の行動と、その背景にある想いに光を当てます。

Public of The Year 2026 メイン MC：北村一輝



【コメント】私自身、50 歳を過ぎてからも、これまでとは違うジャンルの仕事や趣味に挑戦し続けています。新しいことに挑戦し、自ら行動することで、さまざまな方との出会いが生まれ、そこから新しい発見や刺激を受け、また新たな何かが生まれていく。そんな出会いやつながりを大切にしています。今回、このような MC のお話をいただいたことも、また一つの新しいご縁であり、挑戦だと感じ、お引き受けすることにいたしました。初めてのことも多いかと思いますが、楽しむ気持ちと感謝の気持ちを忘れず、私らしく精一杯務めさせていただきたいと思います。

【プロフィール】1969 年、大阪府生まれ。1990 年から俳優としてのキャリアをスタート。1999 年公開の映画『皆月』、『日本黒社会 LEY LINES』で、『キネマ旬報』日本映画新人男優賞受賞。代表作として、映画『テルマエロマエ』、『ガリレオ』、『猫侍』シリーズ、NETFLIX「地面師たち」など、数多くの人気作品で幅広い役柄をこなす実力派俳優として活躍を続けている。年末特別編として『猫侍-ビギニング-』が待望のリブート。（テレビ朝日 12/29 特別編、BS 朝日 1/4（月）22:30 スタートに主演）赤坂の行列カレー店「大阪マドラスカレー」のオーナーでもある。

Public of The Year 2026 司会進行：小澤陽子



【コメント】私自身、今年 11 年間勤めたフジテレビを退社し、フリーで活動する一方、新事業〖zutto toujours〗を立ち上げるなど、まさに新たな挑戦の最中です。社会を動かし繋げてらっしゃる皆様を称える「Public of The Year」の MC を勤めさせていただき大変光栄です。当日は皆様に刺激をいただきながら、アワードの魅力が最大限となる空間づくりに努めます。よろしくお願いいたします！

【プロフィール】2015 年フジテレビに入社、11 年間アナウンサーを務め、報道からバラエティなど幅広い番組を歴任。現在はフリーとして活動する一方、新事業〖zutto toujours〗を立ち上げるなど、経営者としての一面も。

メディアや専門機関などから分野を代表する審査員 11 名

「Public of The Year 2026」審査会は、社会動向と個々の活躍を広く観察されているメディアや、各分野を代表する団体の方々により、「企業・事業」部門が 3 名、「学術・文化」「芸能・スポーツ」部門が各 4 名ずつの、計 11 名の審査員で構成しました。今年活躍する行動者が多数いる中でも、審査会はその行動の軌跡に着目し、4 つの視点「社会を動かす」「社会をつなげる」「その年の社会の象徴」「社会的価値を生み出す」から、審査いたします。

【企業・事業部門】

一般社団法人日本経済団体連合会 事務総長 藤原 清明



【コメント】社会を前に進める原動力は、現状にとどまることなく、新たな価値の創造に挑む一人ひとりの「行動」にあります。変化が加速し、将来を見通すことが難しい時代だからこそ、志を持って踏み出す一歩の意義は、これまで以上に大きくなっています。Public of The Year 2026 を通じて、社会に新たな可能性を示し、人々の共感や次なる行動を生み出す挑戦に出会えることを楽しみにしています。その背景にある情熱や信念にも目を向けながら、心からの敬意を込めて審査に臨みます。

【プロフィール】1959 年東京都生まれ。1983 年に東京大学経済学部を卒業し、社団法人経済団体連合会の事務局に入局。理財部での勤務を経て、2016 年に常務理事兼秘書室長、2018 年に常務理事、2022 年に専務理事を歴任。2026 年 6 月より事務総長を務める。

朝日新聞デジタル編成本部長 春日 芳晃



【コメント】社会の変化がかつてない速さで進み、人と人とのつながりや、社会の連帯を実感しにくい時代になっています。分断が語られ、その克服への道筋が求められる今だからこそ、社会をより良い方向へ動かした人物とその行動をたたえる「Public of The Year」には、大きな意義があると感じます。審査にあたっては、広く知られた功績だけでなく、地道な実践を積み重ね、社会により良い変化をもたらしている方々にも目を向け、その挑戦に光をあてたいと思います。

【プロフィール】１９９７年に朝日新聞入社。社会部、ニューヨーク特派員、イスタンブール支局長、国際報道部長、編集局長を経て、２０２６年４月から現職。海外特派員時代は国際連合本部や中東地域、シリア内戦を担当し、テロの現場や紛争の前線を現地で取材した。この経験から、歴史の流れの中で「いま」を位置づける報道、世界の中で日本を相対化させる報道をめざしている。

NewsPicks 編集長、NewsPicks 事業執行役員 佐藤 留美



【コメント】社会を動かすのは、いつも誰か一人の決断と、それを支える無数の人の行動です。NewsPicks で 12 年、ビジネスの現場を取材し、華やかな成果の陰には必ず、誰にも気づかれない仕事があると感じてきました。組織の問題の片鱗にいち早く気づいて手を打つ判断も、世に出る前に誤りを正す確認も、災害や冤罪を食い止める努力も、成功するほど「何も起きなかった」ことになります。Public of The Year が、そうした人の行動にこそ光を当てる賞であるよう、その一歩が社会にもたらしたものを、編集記者の目で率直に見極めたいと思います。

【プロフィール】青山学院大学文学部卒業後、人材関連会社勤務などを経て、2005 年に編集企画会社ブックシェルフを設立。「週刊東洋経済」「PRESIDENT」「日経 WOMAN」などで、人事・労働・キャリア分野の記事を多数執筆。2014 年 7 月、NewsPicks 編集部の立ち上げに参画。副編集長、執行役員 CCO（Chief Community Officer）を経て、2023 年 10 月より編集長。著書に『仕事 2.0』、『凄母』（東洋経済新報社）、『資格を取ると貧乏になります』（新潮新書）など。

【学術・文化部門】

独立行政法人日本芸術文化振興会理事長 長谷川 眞理子



【コメント】今の時代、一人の力で社会を動かすことは大変に難しい。誰もが何についての意見でも公表できる手段を手に入れたが、その結果できたのは混沌とした世界だ。この状況で人々を一つに、しかもよい方向に結集させるのは不可能に近いのではないか。そんな中で、何かをしかけた人、そして、たとえ意図してはいなくても結果的に、社会に望ましい大きな変化をもたらす発端になることをなした人を見つけてあげたい。私自身はもう、社会の先端で何が起きているのかには疎いが、自分自身の勉強をかねて、目を見開いていきたい。

【プロフィール】1952 年生まれ。83 年東京大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学。86 年理学博士（東京大学）。専修大学法学部教授、早稲田大学政治経済学部教授、総合研究大学院大学教授、同大学 学長を経て、2023 年 4 月より現職。著書に『進化的人間考』（東京大学出版会、2023 年）、『自然人類学者の目で見ると』（青土社、2023 年）、『美しくて残酷なヒトの本性』（PHP 新書、2025 年）、『ダーウィンは進化をどう考えたのか』（ちくまプリマー新書 2026 年） などがある。

毎日新聞社 執行役員 編集担当 坂口 佳代



【コメント】今年は米国とイスラエルによるイランへの攻撃により、ホルムズ海峡が封鎖され、世界経済が大きな影響を受けました。原油価格が高騰し、物価高が暮らしに重くのしかかっています。事態が好転する兆しが見えない中でも、勇気や希望をもたらしてくれるニュースに出会い、うれしくなることがありました。そこには、地道な努力を積み重ねて社会を動かした人がいます。そんな人物に光を当てる「Public of The Year」に参加し、広く発信できることを楽しみにしています。

【プロフィール】1967 年生まれ。1990 年、毎日新聞社入社。記者として 19 年間、社会部、政治部などで主に事件事故、行政、政治を取材。2011 年、社会部副部長。和歌山支局長、地方部長、編集局次長、編集局長を経て 2025 年 4 月から現職。日本新聞協会ＮＩＥ（Newspaper in Education＝教育に新聞を）委員会で、ジャーナリズムの意義やメディアリテラシーへの理解を深めてもらうための活動にも取り組んでいる。

株式会社マガジンハウス執行役員 BRUTUS 編集長 田島 朗



【コメント】「今年はどんな年だった？」その答えは、大きなニュースや出来事だけでは語れない気がします。これまでの当たり前を更新した人、世の中に新しい選択肢をつくった人、長い積み重ねの末にひとつの成果を実らせた人。その行動と、そこに至るまでの時間に目を向けることで、その年の輪郭が見えてくる。2026 年という一年を少し前へ進めた人たちに、敬意を持って向き合い、その行動を称えたいと思います。

【プロフィール】1974 年生まれ。97 年マガジンハウス入社、「BRUTUS」に配属となり約 18 年間在籍。2016 年に「Hanako」編集長に就任してリニューアルに着手。雑誌作りに加え、デジタルや読者組織、商品開発、BtoB 事業など幅広く展開。21 年 12 月に第 11 代 BRUTUS 編集長に就任、2024 年 1 月に創刊 1000 号、今年で創刊 46 周年を迎えた。動画事業や海外事業、アプリ事業などにも参入し、従来の雑誌という枠を超えたブランドビジネスを拡げ続ける。第三編集局長として「BRUTUS」の他、「POPEYE」「Tarzan」の発行人も務める。

株式会社ニュートンプレス 科学雑誌『Newton』編集長 板倉 龍



【コメント】科学雑誌『Newton』には、科学の最前線と社会をつなぐ使命があります。その編集長として、審査員を務めさせていただくことを大変光栄に思います。学術や文化に新たな蓄積を積み上げ、さらに社会を動かした方に光が当たる。そのことには、大きな価値があると信じています。候補者の皆さまへの敬意を胸に、2026 年にふさわしい受賞者を選ぶ重責をしっかりと果たしたいと思います。

【プロフィール】1973 年生まれ。2002 年ニュートンプレス入社。科学雑誌『Newton』の編集者として、「虚数がよくわかる」「次元とは何か」「いますぐわかる $E=mc^2$」などの特集を担当。科学のおもしろさと最新情報を広く、わかりやすく、魅力的に伝えるための試行錯誤をつづけている。2026 年 7 月から編集長。

【芸能・スポーツ部門】

公益財団法人日本スポーツ協会 副会長 三宮 恵利子



【コメント】Public of The Year 2026 の審査員を務めさせていただき光栄です。昨年度に続き 2 度目の委員ですがとても難しい選考になります。自らの行動が感動や勇気を与えてくれた候補者をしっかり選びたいと思います。

【プロフィール】釧路星園高等学校卒業後、1993 年に富士急行に入社。スピードスケートのトップアスリートとして 1998 年長野、2002 年ソルトレークシティと 2 度の冬季五輪に出場、日本選手団旗手を務める。2001 年世界スプリント選手権で総合 2 位に輝く。現役引退後はモータースポーツへの参戦やスケート解説。日本スケート連盟理事・強化部長を歴任し、2025 年度より日本スポーツ協会副会長兼代表理事に就任。

株式会社文藝春秋 Number 局 局長 中村 毅



【コメント】編集者として、これまで数多くの表現者やアスリートが紡ぐ「物語」を言葉で伝えてきました。その物語の元になっているものが、本アワードが評価の対象とする、熱を帯びた「行動」です。2026 年も、人々の心を深く揺さぶり、新たなつながりを生み出した特別な瞬間がいくつもありました。未来への力強い後押しとなるよう、真摯に選考に臨みたいと思います。

【プロフィール】慶應義塾大学法学部政治学科を卒業後、1996 年文藝春秋入社。「週刊文春」「文藝春秋」「Sports Graphic Number」を経て、2020 年より「NumberWeb」編集長、2022 年より「Number」編集長。本年 7 月から「Number」発行人を務める。

TBS テレビ取締役 佐藤 朋子



【コメント】番組づくりを通じて、人の行動が、社会の空気を少しずつ変えていく場面を何度も見てきました。踏み出した時、その一歩がどこへ続くのか、本人にも見えていないのかもしれません。けれど大きなうねりの始まりは、いつも誰かの小さな一歩です。派手さはなくとも、やがて未来の起点になる、そんな一歩に光を当てたい。ＡＩが急速に存在感を増す今だからこそ、その一歩を見つけ、次の誰かの背中を押す力につなげたいです。

【プロフィール】1993 年 TBS テレビ入社。以来 30 年余り、朝・昼・夕方・週末と多くの時間帯で情報・報道番組の制作に携わる。情報制作局長を経て現職。

オリコン NewS 株式会社 代表取締役 永井 祐輝



【コメント】社会に大きな影響を与える人物や活動を顕彰する本アワードの審査員を務める機会をいただき、大変光栄に思います。エンタテインメントをはじめ、さまざまな分野で人々に希望や活力を届け、社会を前向きに動かした取り組みを多角的な視点から評価したいと考えています。その年を象徴する存在を選出することで、多くの方々が新たな価値や可能性に触れるきっかけとなることを期待しています。

【プロフィール】エンタテインメント領域を中心に、ニュースメディアの運営やコンテンツ戦略、映像・SNS を活用した情報発信に従事。音楽、映像、テレビ、配信サービスなど幅広いジャンルの話題を扱い、多様化するメディア環境に対応した情報提供を推進している。エンタメを通じて社会や文化の動向を発信し、生活者とコンテンツをつなぐメディアづくりに取り組んでいる。

Public of The Year ステートメント

1 人の、その行動が、
できそうにないこと、
想像もしていなかったことを実現し、
その事実に多くの人が励まされ、
多くの人の希望や力になり、
企業や組織や社会を動かしていく。
そして新しい不可能を可能にしていく。
1 人の、その行動が、
人を超えて、業種を超えて、国を超えて、
世の中にひろがっていくような手応えを多くの人が感じ、
同じ時代につながって生きていることの
意味を確かめられる。
1 人の、その行動が、
つぎの 1 人の行動を生み、
さらに新たな行動を生み続けていく。
その年、その時代を象徴する人を、その行動をたたえたい。

Public of The Year 2026

株式会社 PR TIMES について



PR TIMES（読み：ピーアールタイムズ）は、「**行動者発の情報が、人の心を揺さぶる時代へ**」をミッションに掲げ、「行動者」のポジティブな情報がニュースの中心となり、個人を勇気づけ前向きにする社会の実現に挑んでいます。私たちは人の行動や頑張りの結晶を、その想いを紡いで発表するのがプレスリリースだと考え、企業規模を問わず「行動者」が自ら発信できる、PR の民主化を目指して事業を展開しています。プレスリリース配信サービス「PR TIMES」の利用企業数は 13 万 3000 社を超え、国内上場企業の 66%超に利用いただいています。情報収集のため会員登録いただくメディア記者 3 万人超、サイトアクセス数は月間約 9000 万 PV、プレスリリース件数は月間 4 万 6000 件超、累計で 200 万件を超えています。全国紙 WEB サイト等含むパートナーメディア 260 媒体以上にコンテンツを掲載しています（2026 年 8 月時点）。

他にも、ストーリーで伝える「PR TIMES STORY」、動画で伝える「PR TIMES TV」、PR 活動の設計から実行まで伴走する PR パートナー事業、アート特化型の PR プラットフォーム「MARPH」、「STRAIGHT PRESS」等のニュースメディア事業で、情報発表とその伝播を支援する他、生まれた企画が発表に至るまで前進できるよう支えるタスク・プロジェクト管理ツール「Jooto」、さらに発表後のお客様対応や情報整理を円滑に行えるカスタマーサポートツール「Tayori」など、「行動者」を立体的に支える事業を運営しています。

また子会社には、スタートアップメディア「BRIDGE」を運営する株式会社 THE BRIDGE、ソフトウェア受託開発を行う株式会社グルコース、SNS マーケティング支援の株式会社 NAVICUS があります。

【株式会社 PR TIMES 会社概要】
ミッション：行動者発の情報が、人の心を揺さぶる時代へ
会社名　　：株式会社 PR TIMES　（東証プライム、名証プレミア　証券コード：3922）
所在地　　：東京都港区虎ノ門一丁目 17 番 1 号　虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー 28F
設立　　：2005 年 12 月
代表取締役：山口 拓己
事業内容　：- プレスリリース配信サービス「PR TIMES」（https://prtimes.jp/）の運営
- ストーリー配信サービス「PR TIMES STORY」（https://prtimes.jp/story/）の運営
- クライアントとメディアのパートナーとして広報・PR 支援の実施
- 動画 PR サービス「PR TIMES TV」（https://prtimes.jp/tv）の運営
- アート特化型オンライン PR プラットフォーム「MARPH」（https://marph.com/）の運営
- カスタマーサポートツール「Tayori」（https://tayori.com/）の運営
- タスク・プロジェクト管理ツール「Jooto」（https://www.jooto.com/）の運営（一般提供は 2027 年 7 月 31 日をもって終了予定）
- 広報 PR のナレッジを届けるメディア「PR TIMES MAGAZINE」（https://prtimes.com/magazine/）の運営
- プレスリリース専用エディター「PR Editor」（https://preditor.prtimes.com/app/）の運営
- Web ニュースメディア運営、等
URL　　：https://prtimes.co.jp/